

— 巻頭特集 —

日東工作所／更谷雄三  
NITTO MFG. WORKS

Yuzo Saratani

株式会社井上模型製作所／井上佳宣  
INOUE MOKKEI CO.,LTD.

Yoshinori Inoue

三郷金属工業株式会社／児島貴仁  
SANGO METAL INDUSTRIAL CO.,LTD.

Takahito Kojima

写真：北尾浩典 photo\_Hiroyuki Kitao  
文中：中野照 text\_Naoteru Naka更谷雄三／日東工作所代表。  
兄弟で日東工作所を経営する。井上佳宣／株式会社井上模型  
製作所常務取締役。ものづくりを  
広い視野から見る。児島貴仁／三郷金属工業株式  
会社代表取締役。facebookなど  
を使って積極的な情報発信に  
取り組む。

# ものづくり企業の技術は、 徹底した『見える化』と、 進化させる『方向性』が重要！

ものづくり企業にとって、技術は大きな武器であり競争力の源泉と言える。  
高い技術を武器とするものづくり企業3社に、『技術』について語りあってもらった。

今回は精密溶接で高い世界シェアを持つ三郷金属工業株式会社の児島貴仁氏、多彩な素材の試作品製作に強みを持つ株式会社井上模型製作所の井上佳宣氏、ラジコン模型用バンケル型ロータリーエンジンの製造・販売を行う日東工作所の更谷雄三氏に語りあってもらった。そのテーマは『技術』。ものづくり企業に不可欠な要素だけに、白熱した議論が続いた。

## 技術を進化させるベクトルは多様

井上 機械が進化して職人技術の大部分をコンピューター

が担う時代ですから、同じ機械が導入されていけば同じことができますと思われてしまいます。本当はできないんですけどね(笑)。そこで、当社では技術の『見える化』に尽力しています。要は、職人技術をいち早く誰でもできるようにする。これも技術進化のひとつのベクトルなんじゃないかと。だけど、さっきのロータリーエンジンを見て「これはだけへんな」って思いましたけど(笑)

更谷 社員が多い会社は、それが重要ですよ。ただ、当社は二人なので真正面からという感じです。以前は生産技術の関係の仕事が本職でした。いわゆる『治具屋』で、生産現場の困りごとを解決することが仕事でした。ですから、

ものづくりですけど作る前のアイデア(発想)自体が勝負だったんです。劇的に生産効率をアップさせようと思えば、既存の改善ではなく、現状を頭の中で潰して、まったく異なる角度からのアイデアが必要になってきます。

井上 それは茨の道ですね〜(笑)

更谷 でも、常にゼロから考える仕事だったので、こんな小さなロータリーエンジンを開発することができました。例えば、1個の治具製作の依頼を受けて100種類のアイデアを考えたとします。結果的にその中から最適な1個だけを設計・製作し、得意先に納品するのですが、残りの99個は当社だけのノウハウとして蓄積されます。この蓄積がロータリーエンジン開発の技術の根底にあって、それが今日の日東工作所を支えています。だからアイデアも技術だと確信します。

児島 我々は世界シェアで約3割を持つ技術を保持しています。それが実現できるのは、まさに皆さんがおっしゃったところなんです。もし発注先が海外に拠点を作って、当社と同じ機械と図面で作らせても、決して同じものは作れないという自信がありますし、実際にできないんですよ。それは、製品ができるまでのプロセスや機械の能力を最大限まで、もしくは最大限以上に引き出すノウハウがあるから。失敗や試行錯誤から蓄積されていくので、作り方を見てもわからないし、製品を見てもわからない。

更谷 確かに、他社が同じ機械を使っても当社と同じものが出来ないようにしておくことが大事ですよ。いつも加工方法を他人に頼らず自社で考え進化させて、作り方がブラッ